

俵屋宗達と雅の系譜

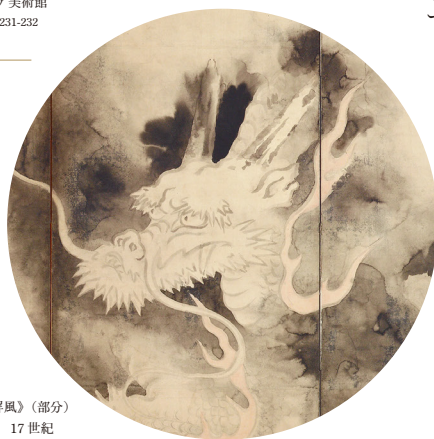
Lineage of Elegance:
Tawaraya Sōtatsu

開催記念シンポジウム

本年は琳派が注目され様々な催しが企画されています。琳派の祖といわれる宗達が、なぜ、今、注目されているのでしょうか？ 2015年10月に米国、ワシントンDCで開催される「俵屋宗達と雅の系譜」展を記念し、日米の専門家が「なぜ、今、宗達なのか」を考えるシンポジウムを開催いたします。シンポジウムの間、東京藝術大学所蔵の《雲龍図屏風》(複製)、《伊勢物語図》を特別展示するほか高橋憲正氏(宝生流シテ方能楽師)に話を披露いただきます。



俵屋宗達《松島図屏風》(部分) 江戸時代 17世紀 紙本着色 6曲1双 フリーア美術館
Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution, Washington, DC: Gift of Charles Lang Freer, F1906.231-232



俵屋宗達
《雲龍図屏風》(部分)
江戸時代 17世紀
紙本墨画淡彩 6曲1双
フリーア美術館
Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution, Washington, DC:
Gift of Charles Lang Freer, F1905.229-230

Sōtatsu in ワシントン —国境を越えた宗達

2015年3月22日(日)

13:00 ~ 16:00 (開場 12:30 ~)

場所 東京藝術大学大学美術館

主催 国際交流基金、国立スミソニアン協会
フリーア|サックラー美術館、東京藝術大学

パネリスト 古田亮(東京藝術大学大学美術館准教授)、
ジェームス・ユーラック(フリーア|サックラー美術館
シニア・キュレーター)、仲町啓子(実践女子大学教授)、
奥平俊六(大阪大学大学院教授)、山口晃(画家)、
ユキオ・リピット(ハーバード大学教授、ビデオ参加)

参加費無料

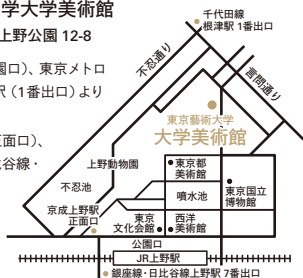
メールまたはFAXで「氏名、所属、メールアドレス、人数」を記載の上お申し込みください。
(event-info@jpf.go.jp FAX: 03-5369-6038)

参加人数 100名(先着順)

お問い合わせは上記の連絡先または
国際交流基金文化事業部米州チーム
(TEL: 03-5369-6061)までお願いいたします。

東京藝術大学大学美術館
東京都台東区上野公園 12-8

JR上野駅(公園口)、東京メトロ
千代田線根津駅(1番出口)より
徒歩10分
京成上野駅(正面口)、
東京メトロ日比谷線・
銀座線上野駅
(7番出口)より
徒歩15分



※駐車場はございませんので、お車のご来館はご遠慮ください



俵屋宗達《扇面散屏風》(部分) 江戸時代 17世紀 紙本着色 6曲1隻 フリーア美術館
Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution, Washington, DC: Gift of Charles Lang Freer, F1900.24

宗達 日本美術史上 最も有名な謎の画家

Sōtatsu: The Painter Who
Remains the Greatest Mystery
in Japanese Art History



《雑木林図屏風》江戸時代 17世紀 紙本着色 6曲1双 フリーア美術館
Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution, Washington, DC: Gift of Charles Lang Freer, F1962.30-31

《風神雷神図屏風》をはじめ《蓮池水禽図》《源氏物語関屋瀟標図屏風》などの国宝と、多数の重要文化財の作者として知られている俵屋宗達。17世紀前半に京都で活躍した宗達は、日本美術史にとって最も重要な画家のひとつですが、意外なことに、その生涯についてはほとんど何も分かっていません。まさに謎の画家と言ってよいでしょう。

宗達は、京都の上層町衆や公家、寺社ともつながりのあった本阿弥光悦(1558~1637)や角倉素庵(1571~1632)ら文化人たちの交流を基盤として「俵屋」という工房を発展させたと考えられています。初期には扇絵や料紙装飾などを手がけますが、やがて屏風や障壁画といった大作の制作も請け負うようになったようです。

フリーアと宗達

Freer and Sōtatsu

宗達の最高傑作が米国、ワシントンD.C.にあるフリーア美術館に所蔵されています。《松島図屏風》と《雲龍図屏風》です。日本にあれば間違いなく国宝指定を受けている作品です。

チャールズ・ラング・フリーア(1854~1919)は、鉄道車両会社で成功をおさめ、40代半ばで引退した後は、美術品の収集に精力を傾けました。数回にわたって日本を訪れたフリーアは、近世を中心とする日本美術を収集し、その質と量はボストン美術館のコレクションに勝るとも劣らないものとなりました。宗達の2点は、その代表的な作品です。しかし、フリーアはコレクションを米国連邦政府に寄贈するにあたって、その条件として館外への貸し出しを一切禁じたため、これらの名品を見るためにはフリーア美術館に行かなければならないのです。本展は、これら門外不出の作品をはじめ、日米の所蔵品、宗達に影響をうけた画家達の作品が一堂に会する空前絶後の夢の企画です。



小林古徑《唐蜀葵》
昭和時代 1939年 紙本着色 2曲1双
東京国立近代美術館



今村紫紅《龍虎》(のうち虎)
大正時代 1913年 絹本着色 1幅
埼玉県立近代美術館

20世紀の宗達

Sōtatsu in the 20th Century

宗達に私淑した尾形光琳、光琳に私淑した酒井抱一らが、今日では「琳派」の系譜として位置づけられています。今日では「琳派」の系譜として位置づけられていますが、そのような見方が広まるのは明治時代後期であり、意外なことに、宗達が一般に知られるようになったのは大正時代のことでした。フリーアが2点の宗達作品を購入したのはそれ以前だったのですが、そのことは宗達芸術に対するフリーアの先見の明を示すものと言ってよいでしょう。

大正時代以降、すなわち20世紀には多くの日本画家たちが宗達の個性豊かな表現に魅せられていきました。今村紫紅、小林古徑、平福百穂、福田平八郎、山口蓬春、前田青邨、小倉遊亀らです。彼らの表現は単純に宗達を真似るということではなく、自己の表現を通して現代に宗達を蘇らせる試みだったと言えることができます。

俵屋宗達と雅の系譜

- 【会期】2015年10月24日(土)~2016年1月31日(日)
- 【会場】アーサー・M・サックラー・ギャラリー、ワシントンDC
- 【主催】国際交流基金、
国立スミソニアン協会フリーア | サックラー美術館
- 【特別協力】東京藝術大学
- 【協力】全日本空輸株式会社 ANA Inspiration of JAPAN
- 【キュレーター】古田亮 (東京藝術大学大学美術館准教授)、
ジェームス・ユーラック (フリーア | サックラー美術館シニア・キュレーター)
- 【学術委員会】奥平俊六 (大阪大学大学院教授)、仲町啓子 (実践女子大学教授)、ユキオ・リビット (ハーバード大学教授)

展覧会の詳しい情報は国際交流基金ホームページをご覧ください。
<http://www.jpfa.go.jp/j/culture/exhibit/oversea/1411/11-01.html>